

ボードレス・アートミュージアム NO-MA

ボードレス・アートミュージアム NO-MA は、数々の試行錯誤の中で、健常者や障害者の区別を超えた「人間に共通普遍的な表現の力を見せる」という視点を提案し、実践してきました。

障害者の作品を特別扱いして評価するようなやり方は、かえって一般美術との間に大きな溝を作り「弱者救済」のような意識を先攻させ、作品そのものの力や魅力を半減させてしまうと考えたからです。

NO-MA の運営を始めてみて痛感することは、関わってくれるアーティストたちが、作品に大変強い関心と興味を持ち、多くの閃きを受けていることです。本来



アートディレクター
はた よしこ さん
滋賀県近江八幡市

運営/滋賀県社会福祉
事業団
NO-MA ホームページ
<http://www.no-ma.jp/>

アートの志向というものは、常に主流の外側に向かって広がりがつつ、未だ見ぬ新しい何かを求めているわけですから、これは当然のことかもしれません。

このような意味でも、表現の始原性に満ちた障害のある人が作る作品が、多くの人の鑑賞の舞台に上がることは、文化全体にとっても意義の深いことだと感じます。また、言語での自己表現が困難な障害者にとって、アートは社会とつながる絶好の方法であることは、言うまでもありません。

以上は、文科省と厚労省が設置した「障害者アート推進のための懇談会(平成19・20年)」での提言の一部です。

意義 significance

障害者と健常者のつながりが醸す普通の社会

生活介護事業所でら〜と



所長
小林 不二也 さん
静岡県富士市

運営/社会福祉法人インクルふじ
でら〜とホームページ
<http://incl.jp/~delato/>

社会福祉法人インクルふじは、平成16年に重度の障害児を持つ親たちの努力によって生まれました。「障害児のニーズを知っている私たちが、福祉の受け手から担い手になろう」という考えのもと、同年に生活介護事業所「でら〜と」(富士市)を、平成21年には生活介護事業所「らぼ〜と」(富士宮市)を設立しました。

障害児を持つ親は「自分たちで何とかしなければ」と責任を過度に感じてしまっています。しかし、親が全てを抱えることは、子どもを社会から孤立させることにもつながるのです。親は、他人による介助を受け入れ、子どもから自立するべきで

す。なぜなら、子どもも、両親以外の人による介助を受けることで、社会性を獲得していくからです。

親も子も、別の人格。社会との関わりの中で、親子が別々の人生を歩んでいくことが、自立なのだと思います。それは、責任や重荷を他人と共有する勇氣を持つことでもあるのです。

障害者は「介護されるだけのかわいそうな存在」ではありません。彼らは、関わった人の心に何かを与えてくれます。彼らと出会い、共に歩んでいくことで、全ての人が笑顔で「普通に生きる」ことができる、成熟した社会が築かれていくのだと確信しています。

支援 support

地域に根付く

地域や住民の中に存在する作家になる
卒業後も発表の場を創出する取り組み



楽しい雰囲気盛り上げる waC の活動風景
(上) そろいの法被を着て神輿をスケッチ
(右) 地元サッカーチームの選手をモデルに



作品発表が育む子どもの自信 そして親と地域社会の関係

私が勤務している藤枝特別支援学校では、授業や部活動で制作した作品をおして、児童・生徒の存在とその個性を地域に発信しています。公共施設のほか、今ではコンビニなどでも作品を発表し、学校や障害者への先入観を拭い去る「理解の場」づくりに取り組んでいます。

校外での作品の認知は、本人の自信となるとともに、同行する親の行動範囲を広げ、親子と地域住民との垣根をも取り払い、関わる人々の生き方を変える力があります。

継続的な活動が生む障害者の 社会的役割と共生の可能性

これまでの卒業は、発表の場を失

うことでもありました。彼らの絵の素晴らしさを伝え、芽生えた才能を開花させるためには、継続が必要です。卒業した彼らが、アートでその個性を表現し発信する場を作りたいという願いから「ワンダフル・アート・コミュニティ=waC」は生まれました。

現在は、30人のスタッフに支えられながら、8人の駆け出し作家が絵筆を執っています。障害の有無に関わらず、仲間の存在は人生を豊かにし、生活の一部として絵を描くことは、彼らの心を育んでいます。現在の waC の発表の場は、近隣の商店街やイベントなどに広がっています。まずは地域に根付いた存在になって欲しいからです。

将来の福祉を共に築くのは、地元の同年代の理解者です。親が不在でも、周囲の理解と協力があれば、みんなが共生していけると思うのです。

見解 Opinion

waC 代表
よしだ えみこ
吉田 恵美子さん

<http://wac.digi2.jp/digi2/Welcome.html>
emiyos8@yahoo.co.jp



Emiko Yoshida



【データ】
藤枝特別支援学校(写真)
所在地/藤枝市前島
2281-1
支援内容/知的障害・肢体重複
設置学部/小学部・中学部・高等部・訪問教育
児童生徒数/5市2町合計約460人(うち島田市約110人)
☎054-636-1891
☑<http://www.edu.pref.shizuoka.jp/fujieda-sh/homensf/>
駿遠分教室
所在地/島田市福用112(駿遠学園内)
支援内容/知的障害・肢体重複(学園通学生)
設置学部/小学部・中学部(学園通学生)
☎46-4386